



長良川漁師

大橋亮二
大橋修

※語り

僕んたが、

長良川の漁師に

生まれて

よかつたなあ

磯貝政司

※聞き書き
※写真

人間★社



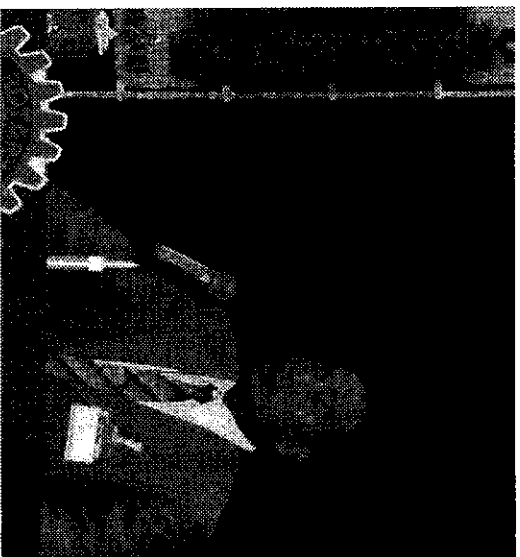
長良川への提言

二〇〇九年九月二七日には、国際ロータリー東海北陸道分区のインタシナイ・ミィナインズが「森と川と海と 水辺の動植物の生態系in長良川」のテーマのもと開かれた。当日は、長良川の上流・中流の流域8区のロータリークラブ会員、衆議院議員、市議会議員、海作り大会関係者、マスコミ、一般市民など約一〇〇人が集まったが、そのなかで兄の亮一さんは、長良川下流地区代表の現役川漁師として、長良川河口域での漁業とその現状について熱く語った。

サツキマスの話

みなさん、こんにちは。長良川一筋で六〇年、漁をやつてきました大橋でございます。今日は「森と海と川と」いう題目になっておりますが、ちょうど、その題目にピッタリの魚が長良川におりますので、その魚の話からさせていただきます。

それはどういう魚や言々と「サツキマス」です。一月頃に郡上で産卵し、それから一年間、同じ谷におつて、また一月頃になると「どうや？ オレ海へ行つてくるが、おまえは海へ行かんか」「オレ



はまあ海みたいなあ行かずに、「ここにおるわい」「そんなら、オレ海へ行つてくるでなあ」「気をつけて行つてこいよ」「おう」って(会場笑)、まあそうは言わんと思ひますけども、私が勝手に想像したわけですが、そういうふうで同じ兄弟^{おな}同士が、海へ行く魚と谷に残る魚に別れます。その海に行く魚をサツキマスと言います。一月から下つて、一二、一、二、三、四と、だいたい五ヶ月ぐらい海におります。どういうことでそんなことがわかる、つて思われるかもしれませんが、それは知多のビーチランドの先生が海の漁師さんに頼んで定置網に掛かるのを調べたところ、いちばん遠いところで、マスは常滑まで行くそうです。中部国際空港のあたりにもおるそうです。ほうして春が近かあなつてくると、「こんだ

「森と海と川と」をテーマに講演する亮一さん (写真上)

山と川と海との結びつきを再確認するため、伊勢湾を取り込む全流域の人々が一緒になつて岐阜県東白川村の森に木を植えたが、亮一さんは長良川漁協代表として参加 (写真下、2003年10月18日)

お常滑からまた、順番に順番に長良川の河口の方へ戻ってくるそうです。戻ってくるのはマスだけで、ちよこつとご無礼ですけどアユはアホやで長良川へよう帰ってこん（会場笑）。アユはどこへでも行つてまうけども、サツキマスというマスの魚だけは生まれましたこの水をよう知つとつて、他所へ行かずに必ず長良川へ帰ってきます。

ほんで私は、そのマスを子どもにたとえて、「ちよこつと環境のお話をしていただけんか」つて頼まれると、その帰ってくるマスの話をします。高校までは岐阜県の高校へ行くやろうけど、大学やなんかは他所へ行くやろうがね。ほんで東京の方へ勉強しに行つてもいいで、そつちでお金をよけい儲けたら、必ず岐阜県へ帰つてきて岐阜県をようしたつてくれよと。そつちでそう税金払うんやないぞ、と。（会場笑）魚でもそうやつて岐阜県のために帰つてくるやつがおるので、魚でぎえ帰つてくるんやで。（会場爆笑）私いつも、そう言つてねえ、子どもんたアにお話していきます。

この長良川にはサツキマスという貴重な魚がおります。海へ行つてくるときえが肉の色も、サケのよくなオレソジ色になつとります。川におるやつは白いなりです。海へ行つてきたやつは味も良うて、なかなか高価な魚です。ということで、この魚は来年、関市をメインにして開かれる全国海づくり大会にまつたくピツタリの魚やなあと思つとります。

長良川河口堰の弊害

私ら六〇年、長良川とつきあつてきましたが、飽きさせん長良川でした。子どもの時は夏休みにな

るときえが、今みたいに学校にプールもありやへんで、全部川でした。今のように塾もどっこも行かへん。夏になったら男も女もみんな川でした。水筒も持たずに、川の水を飲んではらいたも腹痛をやった子は人もおりません。そのくらいきれいな川でしたが、それがだんだん、だんだん汚れてきて、昭和三〇年代の後半から四〇年代でしたやろうねえ、ほんとにはぼちい川になって、靴の裏にへドロがついて歩くたんびに引ついて、だんだん重たあなつて上らんようになってきました。ほうして長良川の堤防に立つときえが、はい(すぐ)いやらしい川の匂いがグクンとしてくるようになります。そういうことがあつてから、だんだんだんだんと長良川はあかんようになってきました。

ほうしたらこんだあ「生命と財産を守る河口堰」。生命と財産を守る——いかにもいい言葉ですわねえ。初めはそんなふうな話やなかつたです。塩害防止とかなんとか言つて、潮止め堰堤やというお話でねえ。私らはそう聞いて「なんで長良川だけ潮がくるのや？ 隣の揖斐川や木曽川はこおへんのか？ おかしいことを言うなあ」つて思つたら、そのうちに「生命と財産を守る治水の河口堰」。そんな人工物ができてやねえ、自然のいい長良川は残つてくはずはございません。

でまあ、そうやつてできて、こんだあ県民説明会たらでバスに乗つて河口堰へ行くときえがねえ、いこと、いとお話ばつか聞かせていただいて、悪いお話はひとつもなし。ほんで私らが「メリットがあればメリットもあるやろ。そんなないことばつかなはずはないやろ」つて言つたら、「それはごさいません。どどここのマウンド(川底の障害物)をとるときえが、水の流れがよくなつて治水にはいいとおつしやる。おかしいことを言うなあ。マウンドとつたところで、そこはゼロメートル地帯やで水は

ちよつとも引かあへん。流れもようなるはずないやないか。そんなもん、仮にゼロメートル地帯で二メートル掘りやあ、水深二メートルのところが四メートルになるだけで、水位はちよつとも変わらへん。

川であつても、私んたアは漁に行くにも「今日は、小潮か大潮か」って、海の漁師のように潮を気にして出ていきます。私んところは河口から四〇キロばかりのところで、毎日水の変動がございませう。今、関市あたりはかなり渇水しと思ひますが、私らの名神高速道路橋から東海道新幹線橋あたりへ来ていただきやあ水はいくらでもある。ちよつとも水が引かあへんで、河口堰で止まつとるだけです。けど、そういうことで止めたつても、一日に二回、差し潮と引き潮で川の水は増えたり減つたりします。河口堰があるのにどういふこつちやつておつしやるやろうけど、新幹線橋のあたりで三〇センチから五〇センチも水が減つたり増えたりしとります。(注：潮は堰で遮断しているので上つてこないが、グートの上げ下げ操作により上流部の水位も変動する)。満潮やときえが水が流れてかずに、長良川が逆流してきます。川は下へ流れるもんやと思つとるで、上へ流れてくると、なんやしらん川におつてもおかしなもんでねえ、気持ちが悪い。そういう変な川になつてしまいました。

今はまんだ海から来る魚は、みなぎん買つてくださるけど、昔から川におる魚は人気ありません。食生活が変わつたというじゃか、スーパで売れるのは全部切り身ばつかです。自分で、包丁でさばくといふような人はみえんよになつてまつた。そういうわけで、コイヤなんかでも四キロ、五キロの大きいやつは捕らんていつくらでもおります。それを魚屋さんへ持つてくと「まあ川へ放流したれ」と言われませう。ナマズも一キロ、二キロというやつを持つてくと「これは大きすぎるでしようない。また逃が

いたつてくれ」つて言われます。(会場笑) ということで、売れる魚の数は減ってきましたが、川から海へ行く魚だけは商品価値があります。どういう魚や言うと、代表的なアユ、それからサツキマス、ウナギ、カニ、まあそこらあたりです。ボラやスズキもおりますけども、今の話でそう商品価値がございませんで、漁師も捕る魚が限定されてきました。それから、サツキマスも遅れて遡上してくるようになります。河口堰ができたもんで、五月の中旬からになって、一ヶ月ぐらい遅れております。アユの遡上期もそうやって遅れておりますもんで、秋になってもまだ一〇センチそこらで、商品価値もないようなアユがたくさんおります。ほんとにまあ、昔の長良川的面影はございません。

水が出やあ、郡上から七、八時間かかって私んだアのとこまで来よつたやつが、今は四時間かそこらで来てまう。蛇行したらなあかん川をあつちもこつちも真つすぐにして、郡上で降つた雨をすぐ海へ送つたろうかということ、ほんとに一本の水路になつてしまいました。長良川といやあ、字のごとく世間の方はええ川やと思つとります。東京あたりでは「長良川は知つとるけど、岐阜県は知らんがや」(会場笑) というような方が多いです。ほんで私は冗談で、滅びゆく長良川やと言つとりましたが、ほんとにあかんようになった。今のうちに長良川を直していただかんと、ほんとどうにダメになつてしまいます。

滅びゆく長良川

今日、関市に呼ばれて「自然の、いい長良川の話」ということやそやですけども、とてもやないが、

下流には素晴らしい話はございませんが、ほんでも先ほど申しましたように、森—川—海と、あつちこつち行く魚がまんだ忘れずに上つてきてくれるのが救いです。けど、河口堰のない時のことを思つたらもう数が減つてまつてねえ、五割も上つてきません。そういうことで、河口堰があつた方がいいか、ない方がいいかつて言やあ、私らはない方がいいに決まつとります。

ほうしたら、こんだあどこやらのダム(徳山)から誰も水のもらい手がないで、もうひとつ作つたらうかつて地下(導水路)を作つてくれるそうやが、それやつて、長良川で漁をして六〇年、水枯れたことはございけません。長良川の下流の漁師はみな、エンジンをつけとるが、スクリュイが引つ掛かつて動けんようなどこはございけません。それでも濁水の時あなは……つて言うもんやで、私は言うんです。「川とゆうものはなあ、いつもかも海と一緒にで、水が同じではあかんぞよ」と。「濁水して枯れた時には河原が出て、その河原をお天道さまの光が消毒してくれて、ばい菌も減つて、河原が乾いて、こんだあ水が出るど、そこへ魚がたくきん寄つてくるんやで。そういうふうやで、いつもかもひとつの水ではあかんぞよ」と。「河原もあり、中洲もあり、浅瀬もあり、ワンドもあり、そういう川が川やぞよ」と。

長良川のなかでも、私の方の四〇キロから下流、桑名の方まで見てつてください。両側セメントばつかで、そんな河原がどこにありますか。自動車を通つていただくと、水が満タンにあつて「いい川やなあ」と思つてくださるやろうけど、川底を見ていただいたらもう、アオコかなんじやあ知らんけど真つ青けです。チカチカ、チカチカと川底で光つとるのはジュースやビールの缶ばつかで、ほんとにたくきん光つとります。ゴミも昔と今では様変わりしました。昔は、ちよつと大きい水が出て、雨が降つたり

したら、地域総出で流木を拾って、それでご飯やお風呂を焚いとったけど、今はジュースやビール缶に、自動車のタイヤ、バイクなんかも落ちとります。いかにもおぞい川になってしまいました。

それから、天然記念物になつとるイタセシジミを「存知かどうかわかりますか、そんなもんは掃いて捨てるくらいおりました。「おい！ これからちよつと川へ行つて、セシジミ捕まえてこようかや」つて言つては捕まえ、腸を出して甘露煮にしてみました。それが、今は天然記念物です。私はおかしくてかなわん。それをおらんようにしたのは誰がした？ 誰がしたんや？ 人間がしたんやろ。「人間が豊かになりさえすりやあなあ、長良川は滅びていくわい」つて、私は思つてます。

ほんでも今年の長良川は、特にきれいです。なんできれいや言つたら、世の中、不景気やで。(会場笑) できめんです。川底は溜まつてるんですけど、途中はきれいなもんです。私と弟と一緒に漁をしとりますが、二人で「ほんとにきれいやなあ、今年は」「今年は、おまえ、世の中不景気やがや」「おう、そうやなあ」つて、言いながら漁をやつとります。

そういうことで、私んたア、今から陸へ上がるわけにもいかんで、どうぞどうぞ自分の体の動く限りは長良川を見守つていきたいと思つとります。この生きとるうちは長良川へ出て、魚を捕りがてら、長良川をいつまでもきれいに、またこれから少しでもよくなるようお願いをしていきたいと思ひます。その時には、みなさん力を貸してください。

まあ時間が早いけども、漁師やでこれくらいのとこでよろしいですか。どうも勝手なお話をしましてすいません。ありがとうございます。(拍手)